Hospital & Clinic

新札幌整形外科

再開発地区で移転オープン

ベッド縦置きでアメニティ向上

厚別区の新札幌整形外科病院（吉本尚理事長・88床）は、新さっぽろ駅周辺の複合開発プロジェクトの新街区で移転オープンした。手術室を増やして年々増加するニーズに対応したほか、従来とは異なる病室のレイアウトを採用するなど、アメニティの向上に力を入れている。

同病院は、1987年の開院で、建物の老朽化、狭隘化が課題となっていた。同じ地区での建て替えを検討したこともあったが、十分な敷地面積が得られず、JR駅、地下鉄駅、バスターミナスのトリプルアクセスで、市外から訪れる患者の利便性が良くなることから、今回の移転を決めた。

新病院は、RC造5階建て、延べ約5500㎡で、旧病院の1・5倍近い広さとなった。病床数は88床で変わらず、標榜科は整形外科、リハビリテーション科、麻酔科とした。

1階は総合受付、外来、リハビリテーション室、各種検査室。正面入り口すぐ横に約180㎡のリハビリ室を設置。外来リハビリ患者が病院の奥まで入ることなく利用できる。診察室は1室増の6室。診察室から続く形で各種検査室が並ぶため、初診患者でも分かりやすいレイアウト。MRIは更新し、最新の1・5テスラタイプを導入。検査待ちが発生していた一般撮影装置は1台増の2台体制とした。

手術室は3室にするなど診療機能を強化

屋内空中歩廊（アクティブリンク）がつながる2階は患者サポート室、売店などで構成する。手術室は1室増の3室体制とし、各手術室は将来、新たな治療機器の導入も見込んで、余裕のある広さを確保。移転前の年間1500件ほどだった手術件数は、その1・5倍まで対応が可能という。

3、4階は各階44床の急性期病棟。両病棟合わせて、個室と2床室が16室、4人室は16室となっている。4人室は、ベッドを横配置ではなく、縦形配置をメインとしたレイアウトを採用。縦形配置とすることで病室の幅を抑えられ、看護師の移動距離が短くなった。

転落の危険性がある患者の場合、ベッドを壁に寄せて防止できる利点も。患者にとっては、ベッドに横たわった状態の目線が窓となることから、開放的な雰囲気に。個室感覚で間仕切りができ、家族が見舞いにきた際にも十分な広さを確保している。

移転によって、新さっぽろ脳神経外科病院と交雄会新さっぽろ病院、クリニックが入るDースクエアビルが、アクティブリンクでつながった。患者の高齢化によって、さまざまな合併症を抱えているケースも多く、医療連携は患者にとって利便性が向上することから、今後の連携を視野に、3病院の医師同士の交流が行われている。

同病院は、スポーツ専門外来、女性アスリートスポーツ外来にも力入れており、年齢を問わず、地域に信頼される病院を目指していきたいとしている。

市立札幌 22年度予算

14.7億円黒字見通し

診療収入減、補助金で増加

市立札幌病院（西川秀司事業管理者・672床）は、市営企業調査審議会病院部会の会合で、2022年度予算について、経常収入は273・6億円、経常支出は258・9億円で、14・7億円の黒字になるとの見通しを報告した。

	22年度予算	前年度増減
診療収益	221.2億円	▲5.2億円
一般会計繰入金	9.2億円	▲6.1億円
その他収益	43.2億円	30.2億円
経常収入計	273.6億円	19.0億円
人件費	119.0億円	▲1.1億円
材料費	80.2億円	4.8億円
軽費ほか	55.5億円	2.1億円
医業外費用	4.2億円	▲0.8億円
経常支出計	258.9億円	5.1億円
収支差引	14.7億円	13.9億円

診療収益は入院患者減により前年度比5・2億円減の221・2億円となるが、感染症病床確保促進事業費補助金による収益の増加や、手当圧縮による支出人件費削減などにより、収支差が前年度比13・9億円アップになるとした。

新型コロナウイルス感染症で、感染症用病棟に多くの医師や看護師を配置したため、21年5月下旬～6月前半は約45％2 65床の一般診療にとどめるなど、多くの病院機能を制限。19年度～22年6月末に新規入院患者は1859人、延入院患者は2万2309人（うち重症患者1634人）を受け入れた。

また22年度の入院延べ患者数は17万9286人（21年度決算見込み13万9319人）の28・7％増、外来延べ患者数は27万5598人（24万5928人）の12・1％増を計画している。

病床利用率は、20年度57％（計画値86％）、21年度57％（87％）だったが、22年度に73％（88％）まで上昇。以降年4％ずつの回復を見込んでいる。

20年度から3年間は補助金により黒字化するものの、23年度以降は患者数の回復が進まないため、黒字化が難しいとみている。

川西内科胃腸科 さっぽろ銀杏会記念病院に改称

中央区の川西内科胃腸科病院（川西譲児理事長・85床）は、1日から病院名を「さっぽろ銀杏会記念病院」に改称した。

正面玄関前に樹齢100年を超える銀杏の大樹があることから名付けた。内科と消化器内科の

盾環器

コロナ後遺症1年間で175人受診